

1987 年 度 活 動 報 告

I. 春の例会 (1987年4月3日, 於 大阪市立大学日本地質学会会場)

特別講演: 「アフリカの構造地質学」 諏訪兼位 (名古屋大学)

総会: 昭和61年度活動報告及び会計報告の承認・昭和62年度活動計画及び予算案の承認

II. 夏の例会 (1987年8月4日～6日, 於 津久見市戸高厚生会館)

個人講演 (4日, 14:00～15:30)

1. 佐賀関半島～佐田岬半島の三波川帯の変形構造とテクトニクス

卯田 強・阿部正憲・山口修司・増村通宏 (新潟大)

2. 和泉層群の岩盤クリープ変形について

横山俊治 (川崎地質)

3. 四国東部秩父中のチャートの小褶曲について

山北 聡 (宮崎大)

シンポジウム「西南日本のジュラ紀～白亜紀付加体とテクトニクス」(4日15:30～5日12:00)

シンポジウムのねらいについて

世話人会

I. 付加及び付加作用について

現世の付加体の構造—中米海溝, パルパドス及び南海・駿河・相模トラフ

小川勇二郎 (九大)

乱雑層とその形成機構に関する諸問題

坂井 卓 (九大)

II. 秩父帯・四万十帯と付加テクトニクス

秩父累帯南帯の形成—一般性と地域性に着目して—

松岡 篤 (新潟大)

関東山地秩父帯における付加帯の形成年代

岸田容司郎・久田健一郎 (大阪教育大)

東九州秩父累帯南帯の岩層・地帯区分及び小構造

西 琢郎 (九大)

紀伊半島四万十累帯の付加体の構造と島弧前弧地域の未固結変形

鈴木博之 (同志社大)

メランジェの形成

波田重熙 (高知大)

九州四万十帯の付加コンプレックス

坂井 卓 (九大)

美濃テレーンのメランジェと造構作用

コメント 大塚 勉 (大阪市大)

総合討論

巡検 (5日13:00～6日16:00): 秩父累帯南帯及び四万十累帯北帯の地層 (津久見市・延岡市)

案内者 坂井 卓氏・西 琢郎氏

III. 冬の例会 (12月22日～23日, 於 地質調査所)

シンポジウム「1980年代から1990年代にかけての構造地質学の課題

—1992年 IGC 日本開催に向けた構造地質学の役割と展望」(22日13:00～23日17:30)

はじめに—世話人会の主旨説明—

鈴木尉元, 角田史雄, 伊藤谷生, 小玉喜三郎, 木村克己, 尾崎正紀, 佃 栄吉

1. 1992年 IGC 構造地質分野のシンポジウムテーマについて

—プログラム準備委員会の経過・現状と予定—

植村 武 (新潟大)・吉田鎮男 (東大)

2. 堆積盆の形成機構の諸問題

横ずれ断層運動にともなう堆積盆の形成

宮田隆夫 (神大)

堆積盆地の運動をどう読みとるか

山内靖喜 (島根大)

3. 褶曲形成機構に関する諸問題

褶曲形成機構に関する新しい問題点

小玉喜三郎 (地調)

- キンク褶曲の形成条件 植村 武 (新潟大)
- 先新第三系の水平的な変位・回転とメガキンク・円錐形褶曲の形成
 - 西南日本の回転との関係をふまえて - 狩野謙一 (静大)・小坂和夫 (日大)
 村田明広 (東大)・柳井修一 (東大)
4. 構造階層及び変形相の諸問題
 変成岩の小構造・変形相とテクトニクス 卯田 強 (新潟大)
5. ネオテクトニクスの諸問題
 ネオテクトニクスの課題 竹内 章 (富山大)
 浅所一地表部の変形過程 伊藤谷生 (東大)
 島弧の深部構造とテクトニクス 鈴木尉元 (地調)
6. 横ずれ断層のテクトニクスの諸問題
 活断層のテクトニクス 佃 栄吉 (地調)
 深部剪断帯とマイロナイトに関する諸問題 高木秀雄 (早大)
7. 付加テクトニクスの諸問題
 前弧のテクトニクスとメランジュ・オリストストロームの形成環境 坂井 卓 (九大)
 付加体のテクトニクスースラスト・褶曲覆瓦構造をなすチャート碎屑岩ユニットの変形過程
 木村克己 (地調)
 ナップテクトニクス-balanced cross section と duplex- 村田明広 (東大)
8. 島弧会合部のテクトニクスの諸問題
 南部フォッサマグナにおける衝突現象 新妻信明 (静大)
 本州中央部の地殻変動履歴 角田史雄 (埼玉大)
9. 東アジアのテクトニクスの諸問題
 東アジアのテクトニクスの最近の議論 木村 学 (香川大)
 東アジアのテクトニクスに関連する課題 藤田至則 (新潟大)
10. 総合討論

1988 年 度 活 動 報 告

I. 春の例会 (1988年4月4日, 於 琉球大学日本地質学会会場)

特別講演: 「付加物質の起源による付加体の分類」早川康隆 (広島大学)

総会: 昭和62年度活動報告及び会計報告の承認・昭和63年度活動計画及び予算案の承認

II. 夏の例会 (1988年8月12~14日, 於 愛知県立労働者研修センター)

個人講演 (8月12日13:00~14:30)

1. 千葉県東方沖地震の震動地塊 角田史雄 (埼玉大)
2. 破壊過程にみられる破片のサイズ分布(破壊の幾何学モデル) 長濱裕幸 (東北大)
3. 伊那谷は盆地の中央部が活断層で動いている 松島信幸 (松尾小)
4. フィリピン群島と日本列島との地質構造発達過程の比較 鈴木尉元 (地調)

シンポジウム「付加テクトニクスII」(8月12日14:30~13日12:00)

シンポジウムのねらい 世話人会 (木村克己, 脇田浩二, 大塚 勉)

I. 美濃一丹波帯堆積岩コンプレックスの地質とそのテクトニクス

美濃帯付加コンプレックスの地質とその形成モデル 大塚 勉 (大阪市大)
 美濃帯チャート・砕屑岩シークエンスの放散虫年代 松岡 篤 (新潟大)・大塚 勉 (市大)
 美濃-丹波帯付加コンプレックスのスラスト覆互構造とそのテクトニクス 木村克己 (地調)

II. 付加コンプレックスの変形構造とメランジュ

美濃帯中央部のメランジュの成因 脇田浩二 (地調)
 四万十帯とメランジュ問題 坂井 卓 (九大)
 付加体の変形条件 植村 武 (新潟大)
 美濃帯の混在層と整然層, およびその関係 山縣 毅 (九大)
 丹波帯メランジの小構造 中江 訓 (大阪市大)
 四国, 四万十メランジュの微細構造 木村 学・向井淳彦 (香川大)
 メランジュの堆積時および後堆積時の変形構造に関する一観察
 - 四国東部秩父累帯南帯の例 - 石田啓祐 (徳島大)
 赤石山地の前期中新世付加体の覆互構造とオリストストロームの形成過程 杉山雄一 (地調)
 男鹿半島潮瀬崎に見られるグイアピル構造 升元一彦 (東大)
 ヤップ海溝から採集した変形した未固結堆積物
 木村学 (香川大)・古家和英 (海洋研)・藤岡換太郎 (海洋研)

III. 総合討論

現地討論会 (13日13:00~18:30): 美濃帯犬山地域のチャート・砕屑岩シークエンス
 案内者 木村克己 (地調), 大塚 勉, 堀 利栄 (大阪市大)
 (14日 8:30~16:00): 美濃帯金山地域のメランジュ 案内者 脇田浩二 (地調)

III. 冬の例会 (1988年12月22日~23日, 於 地質調査所)

シンポジウム「地震断層と断層破壊過程」(22日13:30~17:00)

地震断層の形態と地震発生過程 佃 栄吉 (地調)
 断層形態の把握 コメント 横田修一郎 (鹿大)
 摩擦実験からみた断層面形状と地震断層運動 桑原保人 (地調)
 断層に伴う諸現象-断層粘土・小構造について コメント 宇井啓高 (富山大)
 微小地震活動と地殻断裂過程 溝上 恵 (東大地震研)
 世話人 佃 栄吉, 衣笠善博 (地調), 天野一男 (茨城大), 小玉喜三郎 (地調)

個人講演 (23日)

- 断層の規模別頻度分布について 長濱裕幸 (東北大)
- マスムーブメントにおける断層の問題 横山俊治 (川崎地質)
- 深層型地滑り層のスケール・モデル実験 坂 靖範・三梨 昂・山内靖喜 (島根大)
- 日本列島の第四紀の衝上断層の起源 藤田至則
- 同位体年代測定からみたMTLの活動史 高木秀雄 (早稲田大)・柴田賢 (地調)
- 東北本州弧新生界の褶曲と変形相 植村 武 (新潟大)
- 根尾の対曲地域のメガキンクテクトニクス 狩野謙一 (静岡大)・小坂和夫 (日大)
- 関東西部の新第三紀テクトニクス 高橋雅紀 (東北大)
- 関東山地における秩父帯付加コンプレックス 久田健一郎 (筑波大)
- 大阪府泉南地域における鮮新統~第四系の地質構造 粟根和也 (広島大)
- 宮崎平野の最近の地殻変動 鈴木尉元 (地調)

12. 火成岩・変成岩年代からみた西南日本とコリア半島の対比伊東英文・木下修（大阪府大）

1986年度会計報告

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	102,218	会誌印刷費	558,000
会費	474,000	郵送費	76,230
入会費	3,800	事務雑費	2,150
会誌売り上げ	132,485	行事費	37,950
利子及び利息	3,176	次年度繰越金	41,349
合計	715,679	合計	715,679

(単位：円)

会誌印刷費 32号印刷費(495,000円)、特別号「スランプ相・・・」の印刷費不足分
 郵送費 ニュース(6回分)・連絡などの郵送料
 行事費 会場費, 謝礼など

1987年度会計報告

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	41,349	会誌印刷費	0
会費	566,000	郵送費	116,400
入会費	4,000	事務雑費	14,225
会誌売り上げ	146,525	行事費	1,840
利子及び利息	771	次年度繰越金	626,180
合計	758,645	合計	758,645

(単位：円)

入会費 一部, 63年度入会者分も含む
 会誌印刷費 33号印刷費(650,000円)の支払いが1988年度となったため0円となる
 郵送費 ニュース(5回分)・32号郵送・連絡などの郵送料
 行事費 会場費など
 事務費 封筒など

編集後記

会誌34号は、地調事務局で編集事務を受け持ちました。原稿については省力化と経済性を考えて、構造研究会誌として始めてフロッピー提出としました。全体のボリュームを抑えるため、原稿のページを大きく制限したり、各著者に図表の割り付けまでをお願いしたり等、いろいろと迷惑をおかけしたと思いますが、著者の皆様方の御協力で力作ぞろいの会誌ができました。あとは、この会誌がたくさん売れてくれることを願います。次には英語で会誌を作り、国際市場を開拓したいですね。

1989.2.28 (マンボウ)